

安全データシート

ページ: 1/17

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 26. 03. 2025

製品: Hydroxypropyl Acrylate (HPA)

バージョン: 15.0

(30041308/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 23.10.2025

1. 化学品及び会社情報

品名:

Hydroxypropyl Acrylate (HPA)

用途: モノマー

供給者の会社情報、住所及び電話番号:

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号

OVOL 日本橋ビル 3階

電話番号: +81-3-5290-3000

Eメールアドレス: Japan-SDS-Info@basf.com

緊急連絡先:

電話番号: 03-6634-2245

+49 180 2273-112 (International emergency number)

2. 危険有害性の要約

【化学品のGHS分類】:

急性毒性: 区分4 (経口)

急性毒性: 区分4 (経皮)

皮膚腐食性/刺激性: 区分1B

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分1

水生環境有害性 短期(急性): 区分2

皮膚感作性: 区分1B

水生環境有害性 長期(慢性): 区分3

【GHSラベル要素】:

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

- | | |
|-------------|-----------------------|
| H317 | アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 |
| H314 | 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。 |
| H302 + H312 | 飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合は有害。 |
| H412 | 長期継続的影響によって水生生物に有害。 |
| H401 | 水生生物に毒性。 |

注意書き（安全対策）:

- | | |
|------|-----------------------------|
| P280 | 保護手袋と保護衣と保護眼鏡または保護面を着用すること。 |
| P260 | 粉じん/ガス/ミスト/蒸気を吸入しないこと。 |
| P273 | 環境への放出を避けること。 |
| P272 | 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 |
| P270 | この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 |
| P264 | 取扱い後は汚染された体の部分をよく洗うこと。 |

注意書き（応急措置）:

- | | |
|--------------------|--|
| P310 | 直ちに医師に連絡すること。 |
| P305 + P351 + P338 | 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| P303 + P361 + P353 | 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣服をすべて取り除くか脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗い流すこと。 |
| P304 + P340 | 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 |
| P301 + P330 + P331 | 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 |
| P361 + P364 | 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、そして再使用する場合には洗濯をすること。 |

注意書き（保管）:

- | | |
|------|-------------|
| P405 | 施錠して保管すること。 |
|------|-------------|

注意書き（廃棄）:

- | | |
|------|---|
| P501 | 適切に分別した内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に廃棄を委託すること。 |
|------|---|

GHS分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性:

この項に、有効な情報の記載がある場合、それは、GHS分類の結果ではなく、物質もしくは混合物の総合的な危険性に寄与する可能性があるGHS分類以外の危険性に関するものである。

12章のPBT（難分解性、生物蓄積性、毒性を有する物質）とvPvB（難分解性と生物蓄積性が極めて高い物質）の評価結果を参照。

3. 組成及び成分情報

化学特性

化学物質・混合物の区別: 単一製品

アクリル酸 2-ヒドロキシプロピル

CAS番号: 25584-83-2

化審法: (2)-958

労働安全衛生法: (2)-958

GHS分類に寄与する成分

アクリル酸 2-ヒドロキシプロピル

含有量 (W/W): 98.5 % - 100 %

CAS番号: 25584-83-2

化審法: (2)-958

労働安全衛生法: (2)-958

急性毒性: 区分 4 (経口)

急性毒性: 区分 4 (経皮)

皮膚腐食性/刺激性: 区分 1B

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 1

水生環境有害性 短期(急性): 区分 2

皮膚感作性: 区分 1B

水生環境有害性 長期(慢性): 区分 3

アクリル酸

含有量 (W/W): 0.1 % - 0.5 %

CAS番号: 79-10-7

化審法: (2)-984

労働安全衛生法: (2)-984

水生環境有害性 長期(慢性): 区分 2

急性毒性: 区分 4 (経口)

急性毒性: 区分 4 (吸入-蒸気)

水生環境有害性 短期(急性): 区分 1

引火性液体: 区分 3

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 1

皮膚腐食性/刺激性: 区分 1A

M-ファクター急性: 1

4. 応急措置

[応急措置をする者の保護に必要な注意事項]:

救急隊員は自身の安全に注意を払うこと。危険区域から移動させる。汚れた衣服は直ちに置き替える。患者が意識を失いそうになったら、横向き（回復体位）で安静に寝かせ、搬送する。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。

[吸入した場合]:

安静にし、新鮮な空気のある場所へ移動させ、医師の診察を受けること。直ちにコルチコステロイドエアゾール製剤を吸入すること。

[皮膚に付着した場合]:

直ちに水と石鹼で十分に洗い流し、医者の診察を受ける。

[眼に入った場合]:

直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

[飲み込んだ場合]:

直ちに口をすすぎ、200-300mlの水を飲み、医者の診察を受ける。嘔吐を生じさせないようにする。

[医師に対する特別な注意事項]:

症状: 情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

処置: 症状に応じて処置(洗浄・機能回復)を講じる。特に解毒剤なし。

5. 火災時の措置

[適切な消火剤]:

粉末, 噴霧水, 二酸化炭素, 泡

[使ってはならない消火剤]:

棒状放水

[追加情報]:

周囲の環境に適した消火方法をとること。

[火災時の特有の危険有害性]:

容器が過熱されると激しい自己重合を起こす。容器を噴霧水で冷却する。

燃焼により、有害で有毒なフュームが発生する。ガス/蒸気を吸入しないこと。

物質/製品の漏出は安全な条件下で遮断又は停止させること。化学物質で汚染された水を排水、土壌もしくは表層水に流してはいけない。消火に使用された水を保管して十分な処理を行わなければならない。汚染された水および土壌は、地域の法律に従って、廃棄すること。

[消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置]:

自給式呼吸器を着用のこと。消防士のための特別な保護具

[追加情報]:

消火対策を周囲に拡張する。消火作業は可能な限り火から離れて行うこと。蒸気は大気より重いいため、地表面に滞留し、遠い距離にある発火源まで達することがある。

[追加情報]:

近くで火災が発生した場合、バルク貯蔵タンク内の温度が45° Cに達した場合は、再安定化システムを使用する必要がある。関係者以外を立ち入り禁止。近くで火災が発生した場合、バルク貯蔵タンク内の温度が60° Cに達した場合は、より広いエリアのすべての人員を避難させてください。

[追加情報]:

汚染された消火廃水は法令に従って適切に処分する。

6. 漏出時の措置

[人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置]:

あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。十分な換気を確保すること。呼吸保護具を着用すること。

すべての汚染された衣類は直ちに脱がせること。作業員を現場から離れた風上に移動させる。ピットや閉ざされた空間に注意する。

帯電防止器具を使用すること。労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。

[環境に対する注意事項]:

排水溝等に流出させない。容器に汚染水／消火用水を取り集める。

[封じ込め及び浄化の方法及び機材]:

大量の場合: ポンプで容器に回収する。

こぼれた製品は回収し、固化させ、廃棄用の適切な容器に入れる。法令に従って吸着剤を廃棄すること。十分な換気を確保すること。噴霧水により、ガス／蒸気／ミストを鎮圧すること。水および洗剤を用いて、汚染された床および物質を完全に浄化すること。環境法令を遵守すること。清掃作業は、呼吸保護具を着用して行なうこと。適切な器具を用い回収し、廃棄すること。

[追加情報]: 漏出／流出により床が滑りやすくなるので注意する。

物質／製品の放出は火災又は爆発を引き起こすことがある。漏出の原因を遮断又は停止させる。物質／製品の漏出は安全な条件下で遮断又は停止させること。

廃棄する為には固く閉めた容器に詰める。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い]

本品は、訓練を受けた者のみ取り扱うことができる。危険な反応を避けるために、定期的にポリマーの残留物に関する設備点検と清掃を行う。

作業場の換気を十分に行う。容器封入もしくは排気が必要。容器を充填、入れ換え又は空にする際には作業場を十分に換気する。適切なセパレーターを通してのみ、廃空気を大気に放出する。密閉状態とコネクタのネジ山をチェックする。温まった又は膨張した製品容器を開けないこと。周囲の人間を安全な場所に移動させて消防署に連絡すること。

回避すべき温度を考慮に入れる必要がある。加熱を避ける。直射日光を避ける。製品を光に当てない。

安定剤が分離する可能性がある為、製品は部分的に溶かしたり取り出してはならない。使用の前に、確実に、容器中に結晶化した製品がないようにする。

十分な阻害剤及び溶解酸素レベルを確保すること。あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。

粉塵／ミスト／蒸気を吸入しない。エアゾールを発生させない。あらゆる直接接触を避けること。

安全取扱注意事項:

あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。物質/製品は空気との間で爆発性の混合物を形成することがある。運搬機器にはアースをし、静電気防止措置をとる。静電気が帯電しないように容器にアースをすること。あらゆる機械類の導電部にアースをすることが望ましい。この製品の充填及び処理が引火点を少なくとも5°C下回る温度で行われる場合には、防爆器具は不要である。

容器が加熱された場合、重合を避けるために冷却すること。火に暴露された場合は、噴霧水によって容器を冷却する。近隣火災の可能性に備えて緊急冷却措置を施す必要がある。熱の影響を避けること。

[保管]

保管条件に関する追加情報: 貯蔵する前に、使用する移送装置や貯蔵容器に他の物質/製品が入っていないことを確実にする。貯蔵のために移送する前に、製品が同一であることを確実に確認する。保管場所への入室は、適切な訓練を受けた人のみ許される。

安定剤は酸素存在下でのみ有効。周囲の酸素濃度を5-21%に保つ。貯蔵のためには、不活性ガスインが設置されているタンクを絶対に使用しない。

重合の危険性 加熱を避ける。直射日光を避ける。製品を光に当てない。紫外線及びその他の高エネルギー放射線を避けること。汚染から保護すること。

バルク保管の場合、保管タンクには少なくとも2つの高温アラート装置が装備されている必要がある。結晶化は絶対に避けなければならない為、表示された最低温度以下で製品を保管してはならない。たとえ製品を定められように貯蔵と取扱いを行っても、定められた期間内に使い切るようにする。

保管安定性:

保管温度: < 35 °C

保管期間: 12 月

所定の保管温度に留意すること。

長期保管を避けること。

この製品は可能な限り速やかに処理すること。

十分な阻害剤及び溶解酸素レベルを確保すること。

液体上部の空隙が10%未満の状態に保管しないこと。

保管時の安定性は室温及び先に説明された条件による。

結晶化範囲の上+2度の安全間隔を保つことが推奨されている。

本製品は安定化しているが、保管期間に留意すること。

保管温度: 45 ° C

バルク貯蔵タンク内の温度が指示値に達した場合は、再安定化システムを使用する必要がある。

保管温度: 60 ° C

バルク貯蔵タンク内の温度が指示値に達した場合は、より広いエリアのすべての人員を避難させる必要がある。

次の温度以上にならないように保護すること: 35 ° C

製品特性は制限温度を越えると不可逆的変化を起こす。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

アクリル酸, 79-10-7;

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 2 ppm (ACGIHTLV)

経皮吸収の表示 (ACGIHTLV)

経皮吸収の危険性

【保護具】

[呼吸用保護具]:

低濃度において、または短時間有効な適切な呼吸保護具: 有機化合物 (沸点65°C以上) のガス/蒸気用ガスフィルターEN 14387 A型

[手の保護具]:

長時間の直接接触でも問題ない素材 (保護指針6に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1によると、透過時間は480分以上であること。) :

フッ素ゴム (FKM)、肉厚0.7 mm

ニトリルゴム (NBR)、肉厚0.4 mm

補足: 仕様は、試験、文献データ及び手袋製造業者の情報に基づくもの、あるいは類似の物質から類推されたものである。条件が多いため (温度など)、耐薬品性保護手袋の実際の使用時間は試験で別途得られた物質透過時間よりもかなり短いと考えなければならない。

種類が多岐にわたるため、製造業者が指示した方法を遵守すること。

[眼の保護具]:

密着性安全ゴーグル (飛沫よけ型ゴーグル)

[皮膚及び身体の保護具]:

作業および予想暴露量に基づいて、保護具を選択すること。前掛け、保護靴、耐薬品性保護衣等 (飛散の場合は、EN 14605に従い、粉塵の場合は、EN ISO 13982に従う。)

[一般的な安全及び衛生対策]:

蒸気を吸入しない。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。所定の保護具に加えて、上下一体型作業衣の着用が必要である。労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態:	液体
色:	無色
臭い:	アクリル臭
臭いのしきい値:	測定されていない。
pH:	(20 ° C) 中性, 混合可
融点:	-23.4 ° C 文献データ
沸点:	198.5 ° C (1,013.25 hPa) 常圧においては、分解なしで蒸留することはできない。
引火点:	99 ° C (ISO 2719, 密閉式)
蒸発率:	値は、ヘンリー則定数もしくは、蒸気圧から類推することができる。
可燃性 (固体/ガス):	ほとんど可燃性でない (引火点から導きだした)
爆発下限界:	分類と表示に関連しない液体に関するものである。、爆発下限界は、引火点より5-15°C低い可能性がある。
爆発上限界:	分類と表示に関連しない液体に関するものである。
自然発火温度:	308 ° C (DIN EN 14522)
自己発火性:	温度: 20 ° C 試験の種類: 室温において自然発生する自己発火性。 構造特性から、この製品は、自己発火性に分類されない。
自己発熱性:	低融点のために、試験していない。 自己発熱性物質ではない。
SADT:	GHSによれば、自己分解し易い物質/混合物ではない。
爆発危険有害事項:	化学構造に基づき、爆発性の性質を示すものはない。
火災を引き起こす性質:	構造的長に基づき、製品は酸化剤に分類されない。
蒸気圧:	0.1 hPa (測定) (20 ° C) 動的

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 26. 03. 2025

製品: Hydroxypropyl Acrylate (HPA)

バージョン: 15.0

(30041308/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 23.10.2025

密度:	1.054 g/cm ³ (20 ° C)	(ISO 2811-3)
	1.0256 g/cm ³ (50 ° C)	(OECDテストガイドライン 109)
相対密度:	0.1049 (25 ° C)	
	文献データ	
相対ガス密度 (空気):	4.5 (20 ° C)	(算出)
	空気より重い。	
水に対する溶解性:	混合可	
n - オクタノール/水分配係数 (log Pow):	0.2 (25 ° C)	(測定)
吸着/水-土壌:	KOC: 1.49; log KOC: 0.17	(算出)
表面張力:	化学構造に基づき、表面活性はないと 考えられる。	
粘度:	9.1 mPa. s (20 ° C)	(動粘度から計算)
動粘性率:	8.63 mm ² /s (20 ° C)	(OECD 114)
モル質量:	130.14 g/mol	

粒子特性

粒度分布: 物質/製品は固体や粒状以外の形状で流通もしくは使用されない。 -

10. 安定性及び反応性[避けるべき条件]:

加熱を避ける。5%未満の酸素濃度を避ける。紫外線及びその他の高エネルギー放射線を避けること。直射日光を避けること。長期保管を避けること。阻害剤の消失を避けること。過温を避けること。あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。凍結を避けること。湿気を避けること。結晶化する温度を避ける。

[混触危険物質]:

ラジカル発生物, フリーラジカル開始剤, 過酸化物, メルカプタン, ニトロ化合物, 過ホウ酸塩, アジド類, エーテル, ケトン類, アルデヒド類, アミン類, 硝酸塩類, 亜硝酸塩類, 酸化剤, 還元剤, 強塩基, アルカリ反応性物質, 酸無水物, 酸クロライド, 濃縮鉬酸, 金属塩
不活性ガス

金属の腐食: 金属に対する腐食性なし。

[危険有害な分解生成物]:

爆発および火災の危険は、限定された条件下で起きる。この製品を引火点を超える温度まで加熱する及び/又はスプレーあるいは霧状にすると発火性の空気混合物が形成されることがある。爆発性のガス／空気混合物を形成する。

発熱を伴う重合。

液層中の酸素の減少により自然重合の危険がある。加熱やUV照射により、自然重合を起こす恐れがある。インヒビターが消失するか、製品が過剰な温度に曝されると自然発生の激しい自己重合が起こる危険性がある。重合は、密閉容器を破裂させるガスを発生する。反応して発火することがある。ラジカルの形成により発熱重合が起こることがある。過酸化物および他のラジカル化合物と反応する。ラジカル連鎖反応の開始剤（過酸化物など）存在下における自然重合の危険性。硝酸と反応する。強い酸化剤と接触すると爆発的に重合する。酸化剤の存在下で自然重合の恐れがある。

前述の回避物質と接触して生じる危険有害反応。

本品は、自然重合を防ぐために安定化された後、出荷される。製品は取扱説明書に従って貯蔵すれば安定である。

[危険分解物]:

通常の手扱い条件下で危険分解物なし。

化学安定性:

製品は取扱説明書に従って貯蔵すれば安定である。

反応性:

指示通りの貯蔵と取扱い条件下では有害な反応は起こさない。

11. 有害性情報

ばく露経路

急性経口毒性

実験または計算によるデータ:

LD50（半数致死量）ラット（経口）: 820 mg/kg (OECDテストガイドライン401に類似)

急性吸入毒性

LC50（半数致死濃度）ラット（吸入による）: > 0.38 mg/l 8 h (OECDテストガイドライン403に類似)

吸入暴露試験（IRT）: 動物実験において、8時間以内では死亡なし。蒸気／空気高飽和混合気体の吸入による急性毒性はなし。蒸気で試験した。

急性皮膚毒性

LD50（半数致死量）ラット（経皮）: > 1,000 mg/kg (OECDテストガイドライン402)

死亡なし

急性毒性の評価

単回摂取後、中程度の毒性を示す。短時間の皮膚接触後、穏やかな毒性。蒸気／空気の高濃度または高飽和混合気体を吸入しても、急性毒性を示す可能性は低い。欧州連合（EU）は、吸入すると”

有毒”と分類している。欧州連合（EU）は、“皮膚に接触すると有毒”と分類している。欧州連合（EU）は、経口暴露は”有害”と分類している。

症状

情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

刺激性

刺激性作用の評価:

腐食性。皮膚及び眼を損傷する。

実験または計算によるデータ:

皮膚腐食性／刺激性 ウサギ: 腐食性 (BASF試験)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 ウサギ: 回復不可能な損傷 (BASF試験)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性の評価:

皮膚接触により感作の可能性はある。

実験または計算によるデータ:

マウスの局所リンパ節試験（LLNA）マウス: 皮膚感作 (OECDテストガイドライン429に類似)

生殖細胞変異原性

変異原性の評価:

微生物、哺乳動物培養細胞及び哺乳動物を用いた多くの変異原性試験の結果が公表されている。入手可能な情報を全て考慮した結果、この物質が変異原性であるという証拠はない。この製品は、完全には試験が行われていない。これらの記述は、類似の構造もしくは、類似の組成の製品から得られたものである。

発がん性

発がん性の評価:

この物質が吸入投与された長期動物試験では、発癌性は認められなかった。本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

生殖毒性

生殖毒性の評価:

動物実験の結果から、生殖能力低下は認められなかった。

発生毒性

催奇形性の評価:

動物実験では、発生毒性／催奇形性は認められなかった。この製品は、完全には試験が行われていない。これらの記述は、類似の構造もしくは、類似の組成の製品から得られたものである。

ヒトにおける実績

実験または計算によるデータ:

繰り返し接触することで、皮膚感作の危険性あり。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

利用できる情報に基づくと、単回ばく露後に予測される特定標的臓器毒性はない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

反復投与毒性の評価:

反復投与後にみられる顕著な影響は局所の刺激である。動物への反復投与試験の後、物質特有の臓器毒性は、観察されなかった。この製品は、完全には試験が行われていない。これらの記述は、類似の構造もしくは、類似の組成の製品から得られたものである。

誤えん有害性

予測される吸入危険性はない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生生物に対する毒性の評価:

水生生物に対し急性毒性を示す。廃水処理施設に低濃度で適切に流入すれば、活性汚泥の分解活性を阻害しない。

魚類に対する毒性:

LC50（半数致死濃度）(96 h) 3.61 mg/l, ファットヘッドミノー（学名:）Pimephales (魚急性試験, 流水式)

文献データ 毒性に関する記述は、実測濃度による。

水生無脊椎動物:

EC50 (48 h) 24 mg/l, オオミジンコ（学名: Daphnia magna）(OECDテストガイドライン 202-1, 止水式)

毒性作用の詳細は設定濃度に関係する。

水生植物:

EC50 (96 h) 6.98 mg/l (成長率), 緑藻（学名: Selenastrum capricornutum）(OECDテストガイドライン 201, 止水式)

毒性作用の詳細は設定濃度に関係する。

微生物/活性汚泥への影響:

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 26. 03. 2025

製品: Hydroxypropyl Acrylate (HPA)

バージョン: 15.0

(30041308/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 23.10.2025

EC20 (20%影響濃度) (0.5 h) 約 1,000 mg/l, 活性汚泥 (DIN EN ISO 8192-OECD 209-88/302/EEC 第C, 好気性)

魚類に対する慢性毒性:
データなし。

水生無脊椎動物に対する慢性毒性:
無影響濃度 (21 日), 0.86 mg/l, オオミジンコ (学名: *Daphnia magna*) (OECDテストガイドライン 211, 半止水式)
本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

移動性

環境区分間の輸送評価:
水面から大気中に揮発しない。
土壌の固相には吸着しないと考えられる。

残留性・分解性

除去情報:
90 - 100 % DOC減少 (14 日) (OECDテストガイドライン301A (新試験法)) (好気性, 家庭廃水由来の活性汚泥)

水中での安定性評価:
物質は水と接触すると徐々に加水分解される。

水中における安定性に関する情報 (加水分解):
 $t_{1/2} > 490$ 日, (28 日) (25 ° C, pH 3), (OPPTS 835.2130, その他)

$t_{1/2} > 230$ 日, (28 日) (25 ° C, pH 7), (OPPTS 835.2130, pH 7)

$t_{1/2}$ 12.27 日, (7 日) (25 ° C, pH 11), (OPPTS 835.2130, その他)

総パラメーター

化学的酸素要求量 (COD): 1,705 mg/g

生物化学的酸素要求量 (BOD) 潜伏期間 5 日: < 10 mg/g

生体蓄積性

生体蓄積性の可能性評価:
n-オクタノール／水の分配係数 (log Pow) より、生体への濃縮性はないと考えられる。

生体蓄積性:
データなし。

[追加情報]

その他の環境毒性情報:

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 26. 03. 2025

製品: Hydroxypropyl Acrylate (HPA)

バージョン: 15.0

(30041308/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 23.10.2025

未処理で河川等に流さないこと。

13. 廃棄上の注意

地方自治体の規則に従って、適切な焼却施設に依頼する。

[汚染された容器]:

汚染された容器は製品と同様に廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際陸上輸送:

国連番号もしくはID番号: UN 1760

品名 (国連輸送名): 腐食性液体 (他に品名が明示されているものを除く。)
(HYDROXYPROPYL ACRYLATE, STABILIZED)

国連分類 (輸送における危 8

険有害性クラス):

容器等級: II

環境有害性: 非該当

使用者への特別注意事項: 知見なし

海上輸送

IMDG

国連番号もしくはID番号: UN 1760

品名:

品名 (国連輸送名): 腐食性液体 (他に品名が明示されているものを除く。)
(HYDROXYPROPYL ACRYLATE, STABILIZED)

国連分類 (輸送における 8

危険有害性クラス):

容器等級: II

環境有害性:

非該当

海洋汚染物質: 非該当

使用者への特別注意事項:

EmS: F-A; S-B

Sea transport

IMDG

UN number or ID number: UN 1760

UN proper shipping name:

CORROSIVE LIQUID, N.O.S. (HYDROXYPROPYL ACRYLATE, STABILIZED)

Transport hazard class(es):

8

Packing group:

II

Environmental hazards:

no

Marine pollutant: NO

Special precautions for user:

EmS: F-A; S-B

航空輸送

IATA/ICAO

国連番号もしくはID番号: UN 1760

品名:

Air transport

IATA/ICAO

UN number or ID number:

UN 1760

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 26. 03. 2025

製品: Hydroxypropyl Acrylate (HPA)

バージョン: 15.0

(30041308/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 23.10.2025

品名（国連輸送名）:	腐食性液体（他に品名が明示されているものを除く。） (HYDROXYPROPYL ACRYLATE, STABILIZED)	UN proper shipping name:	CORROSIVE LIQUID, N.O.S. (HYDROXYPROPYL ACRYLATE, STABILIZED)
国連分類（輸送における危険有害性クラス）:	8	Transport hazard class(es):	8
容器等級:	II	Packing group:	II
環境有害性:	環境に対する有害性の表示は必要ない	Environmental hazards:	No Mark as dangerous for the environment is needed
使用者への特別注意事項:	知見なし	Special precautions for user:	None known

IMO機器によるバルクの海上輸送**Maritime transport in bulk according to IMO instruments**

海上のバルク輸送は目的としない。
指針番号: 154

Maritime transport in bulk is not intended.

国内輸送規制はSDSの15章を参照のこと。

[追加情報]

SP386 によれば、輸送中の重合リスクを回避するのに、化学的安定性のレベルが十分であることが確認されている。この情報は、最近安定化された製品に有効である。

15. 適用法令

消防法: 第4類, 第3石油類, 水溶性

毒物劇物取締法:

アクリル酸ヒドロキシプロピル（2-ヒドロキシプロピルエステル, 2-ヒドロキシ-1-メチルエチルエステル混合物）

100 %

医薬用外毒物, 毒物及び劇物指定令第1条毒物

アクリル酸2-ヒドロキシプロピル

労働安全衛生法

通知対象物

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 26. 03. 2025

製品: Hydroxypropyl Acrylate (HPA)

バージョン: 15.0

(30041308/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 23.10.2025

アクリル酸 2-ヒドロキシプロピル
労働安全衛生法
表示対象物

労働安全衛生法
表示対象物
11 2023
1769
施行日: 2025/04/01

SDS及びリスクアセスメント要件 (日本)
通知対象物
11 2023
1769
施行日: 2025/04/01

皮膚等障害化学物質等 (労働安全衛生規則第594条の2)
Japan Substances for PPE Requirement
11 2023
裾切り値: $\geq 1\%$
皮膚刺激性有害物質

腐食性物質類 (JP)
船舶安全法

アクリル酸 2-ヒドロキシプロピル
労働安全衛生法
通知対象物

アクリル酸 2-ヒドロキシプロピル
労働安全衛生法
表示対象物

皮膚等障害化学物質等 (労働安全衛生規則第594条の2)
アクリル酸 2-ヒドロキシプロピル

化学物質名又は元素名	化学物質排出把握管理促進法 (2023年4月1日以降)		
	含有量 (%)	分類, 管理番号	政令名称
アクリル酸 2-ヒドロキシプロピル	99	第2種指定化学物質, 755	アクリル酸 2-ヒドロキシプロピル

その他の規則

もしも、この SDS の他の章に記載されていない法的情報がある場合には、この章に記載されます。

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 26. 03. 2025

製品: Hydroxypropyl Acrylate (HPA)

バージョン: 15.0

(30041308/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 23.10.2025

16. その他の情報

安全な取り扱いと保管についてはリクエストに応じて利用可能なパンフレットでカバーされている。

【JIS Z 7252/7253 : 2019準拠】 本SDSに記載されていない必要項目は、情報がないことを示す。

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

左余白の縦線は前バージョンからの改訂部分を示す。

本安全データシートに含まれるデータは、当社の最新の知識及び経験に基づいて製品を安全性基準の観点からのみ説明するものであり、製品の特性（製品規格）を説明するものではありません。また、当該製品が特定の目的に適した性能・特性を有しているか否かを判断するためのものでもありません。本製品の使用者は自己の責任において製品に関わる特許等の所有権を尊重し現行の法律及び規則を遵守して下さい。